

農業機械部会セミナー
－ 水稲栽培技術を展望する－ 「移植と直播」(I) －

日 時：2016年3月18日(金) 13:00～17:50
会 場：(国研) 農研機構 生研センター 花の木ホール
さいたま市北区日進町 1-40-2

主 催：農業食料工学会
協 賛：(国研) 農研機構 生研センター
企 画：農業機械部会
定 員：100名
参加費：1,000円(資料代・会場受付時に支払い)
参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込みください。

- ①メールによる参加登録：nogyo-kikai-bukai@ml.affrc.go.jp
(所属・農業食料工学会会員区分・氏名を明記の上で参加の旨をお伝えください)
- ②FAXによる参加登録：048-654-7135(下記申込みフォームに記入後送付)

申込みフォーム (FAX用)

所 属	
農業食料工学会会員区分	正会員・学生会員・非会員
氏 名	

開催概要：

農業機械部会では、これまで水稲作の機械化が急速に進むアジア諸国において主要な稲作用機械を対象に、ニーズと内外比較をテーマにセミナーを開催してまいりました。その中で、今後も日本が築いてきた技術やその移転による貢献の可能性は大きいとの考え方や認識を共有できたのではないかと思います。

わが国の農政は「農政の新時代」とも言うべき新たなステージを迎えています。2015 農林業センサスによれば、農業経営体数は5年前よりさらに減少している一方で、法人経営の数と農業経営体の経営面積は増加傾向にあり、農業構造の変化に応じた国内農業の体質強化は、海外市場を開拓していく上でも急務と言われています。

そこで今回は、国内の米消費の減退や米価が低迷する状況の中、引き続きグローバルな観点で稲作を捉えながら水稲栽培技術について今後の展開と研究方向を探ってまいりたいと思います。1回目は移植と直播の機械化技術に焦点をあてて、コメを巡る国際動向に関する基調講演に続き、農業機械メーカーの最新技術、および多収化、収量の安定性、作業の省力化、生産コストの低減に向けた課題等の視点で各講師に話題提供をしていただき、議論してまいりたいと思います。

産官学の垣根を越えて、多数のご参加をお待ちしております。

プログラム：

13:00 開会挨拶 農業機械部会 部会長
(国研) 農研機構 宮原 佳彦 氏

基調講演

13:10 世界のコメ情勢と日本市場のゆくえ－TPPの政府間合意を踏まえて－
九州大学 伊東 正一 氏

移植と直播の最新機械化技術と今後の課題

14:00 移植（密播・疎植）技術の現状と課題
井関農機（株） 雑賀 正人 氏

14:30 移植（成苗）技術の現状と課題
みのる産業（株） 幡上 宏政 氏

15:00 休憩

15:10 湛水直播（鉄コーティング）技術の現状と課題
(株)クボタ 福永 究 氏

15:40 「産業用無人ヘリコプターによる鉄コーティング
種子散播技術」について
ヤンマー（株） 望月 良真 氏

16:10 移植技術の現状と課題
三菱マヒンドラ農機（株） 秦 啓二 氏

16:40 水稲無コーティング種子の代かき同時播種栽培の紹介と
水稲の低コスト生産技術の展望
(国研) 農研機構 白土 宏之 氏

総合討議

座長 宇都宮大学 松井 正実 氏

17:20 国際情勢を踏まえた移植と直播技術の今後の展開と研究方向

17:50 閉会の辞

◆ プログラムは、講師、会場の都合により予告なく変更になる場合があります。

問い合わせ先：

農業機械部会 幹事 山崎

(国研) 農研機構 生研センター

TEL (直通)： 048-654-7108、FAX： 048-654-7135

メール：nogyo-kikai-bukai@ml.affrc.go.jp